

適正規模・適正配置案について

【課題のまとめ】

○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- ・ 小規模校の解消
- ・ 通学手段の見直し
- ・ 地域間における児童生徒数の偏在
- ・ 教職員の確保
- ・ ICT環境の整備の充実
- ・ 「学び」と「育ち」の連続性を確保した小中連携
- ・ 特別支援教育や不登校支援への対応

○ 「協働と創造の学び」の推進

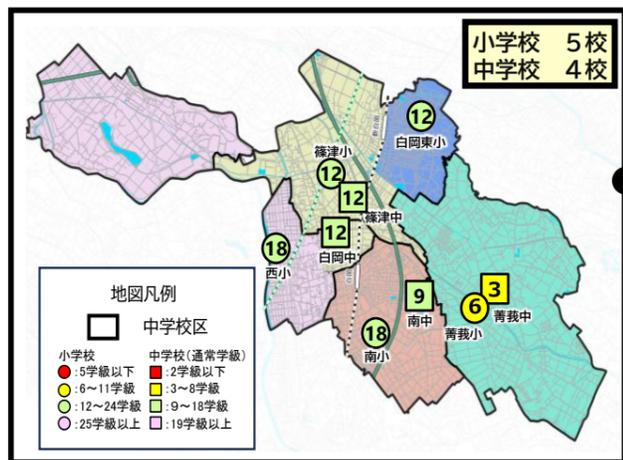
- ・ コミュニティスクールのさらなる充実
- ・ 持続可能な部活動の地域展開
- ・ 地域人材の確保

○ 「快適な学校環境」の実現

- ・ 学校施設の老朽化の解消
- ・ 多様な学びを支える学習空間の確保
- ・ 他の公共施設との複合化
- ・ 教職員の負担軽減
- ・ バリアフリー対応
- ・ 持続可能なプールや学校給食のあり方

● 適正規模・適正配置案【20年後（2045年）】

※ 各パターンの地図は、具体的な学校名や設置場所を示すものではありません。
 ※ 小中一貫校や義務教育学校の設置も想定しています。



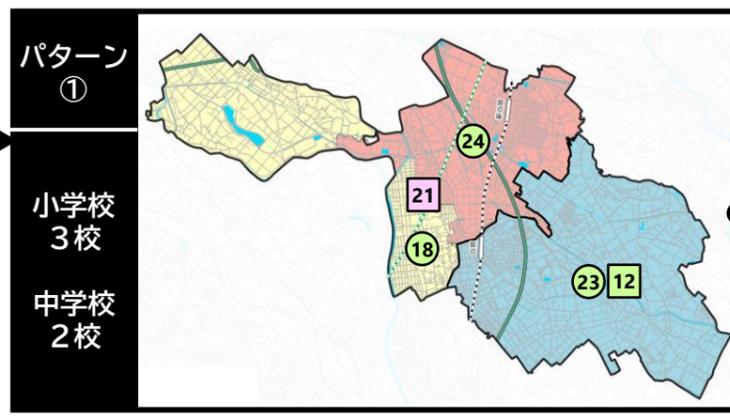
● 20年後の将来推計の児童生徒数の数値を適正規模の基準に照らし合わせ、想定される学校数を算出

児童数 → 2,072人 ÷ 35 = 59.2 約60学級
 適正規模の基準: 小学校 18~24学級
想定学校数: 3~4学校

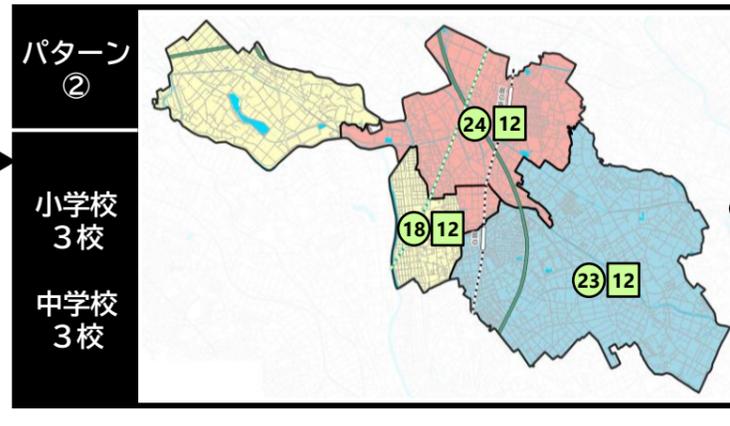
生徒数 → 1,019人 ÷ 35 = 29.1 約30学級
 適正規模の基準: 中学校 12~18学級
想定学校数: 2~3学校

適正規模・適正配置検討条件

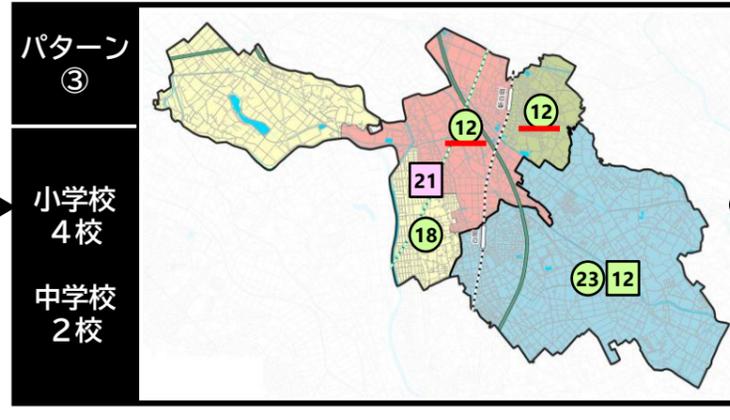
- ① 学校の適正規模の確保
 小学校: 18~24学級
 中学校: 12~18学級
- ② 学校の適正配置の確保
 【通学距離】
 小学校: おおむね4km以内
 中学校: おおむね6km以内
 【通学時間】
 小中ともにおおむね1時間以内
- ③ 現在の中学校区を考慮
- ④ 小中一貫教育の推進
 ・ 小中一貫校や義務教育学校などの手法を取り入れる



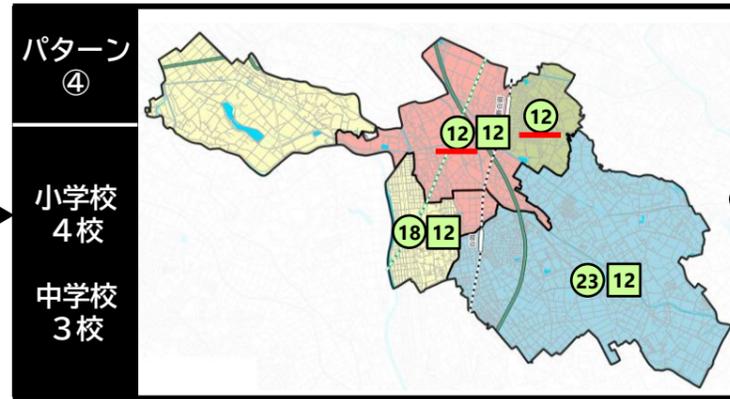
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校の解消が図れる。 ・ 学校規模を最大限確保することで、クラス替えや行事の活性化が図れ、多様な考え方に触れる機会が増えるなど、教育の質や社会性の向上が期待できる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篠津中学校区または白岡中学校区の中学校が大規模校となり、学校の適正規模を超えてしまう。 ・ 小学校が5校から3校になるため、通学距離が伸びる地域において児童の通学負担が大きくなる。 ・ 中学校が4校から2校になるため、生徒の通学負担が大きくなる。 ・ 学校規模が大きくなることで、地域コミュニティへの影響が懸念される。



メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校の解消が図れる。 ・ すべての小中学校で適正規模を確保できる。 ・ 小中学校の校数と同じになるため、小中一貫教育の実現性が高まる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校が5校から3校になるため、通学距離が伸びる地域において児童の通学負担が大きくなる。 ・ 中学校が4校から3校になるため、一部地域で生徒の通学負担が大きくなるとともに、将来的に小規模校化のリスクがある。



メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校の解消が図れる。 ・ 小学校が5校から4校になるため、パターン①、②と比較して児童の通学負担を抑えることができる。 ・ 中学校が4校から2校になることにより、クラス替えや行事の活性化が図れ、効果的な学校運営が期待できる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篠津中学校区の2つの小学校が準適正規模校となり、学校の適正規模を下回ってしまう。 ・ 篠津中学校区または白岡中学校区の中学校が大規模校となり、学校の適正規模を超えてしまう。 ・ 小学校で将来的に小規模校化のリスクがある。 ・ 中学校が4校から2校になるため、生徒の通学負担が大きくなる。



メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校の解消が図れる。 ・ 小学校が5校から4校になるため、パターン①、②と比較して児童の通学負担を抑えることができる。 ・ 現在の中学校区単位での地域コミュニティの維持に最も配慮している。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篠津中学校区の2つの小学校が準適正規模校となり、学校の適正規模を下回ってしまう。 ・ 小学校で将来的に小規模校化のリスクがある。 ・ 中学校が4校から3校になるため、一部地域で生徒の通学負担が大きくなるとともに、将来的に小規模校化のリスクがある。